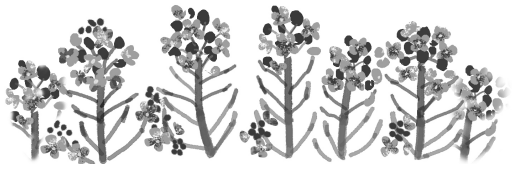


水について

宮坂静生



春濤になるとも知らず山の水  
浅春や山のフランス式水路  
出熊<sup>ぐま</sup>穴<sup>あな</sup>水の赤ちゃんぽん  
山笑ふ水の笑ふといふことも  
切<sup>きつ</sup>先<sup>さき</sup>の幾<sup>ここ</sup>許<sup>こだ</sup>触れ合ひ春の川  
つちふるや積<sup>せき</sup>苗<sup>びょう</sup>工<sup>こう</sup>は砂防の名



百千鳥ほどの水音牧の寺  
よいとまけ空の臍<sup>ほぞ</sup>より春の堰  
春の水堰<sup>せ</sup>く親不孝ばかり積み  
雪代の日暮さからひ溯る  
溪流の離れてゆきぬ春夕べ  
家毀つ一撃椿蜜貯めず  
春の夜大かとんぼのわが身より